

2022年版全国ブロック選抜U-12適用規則

第1章 演技の採点

第1条 原則

1. 次に示すもの以外は、(公財)日本体操協会制定2022年版体操競技男子採点規則を適用とする。

第2条 決定点

1. 決定点の構成

- (1) 決定点は、次のような配点により構成される。

演技構成	(Dスコア：5技 + 終末技 + 技のグループ)
+ 実施	(Eスコア：10.00 - 減点)
- N D	(ニュートラル・ディダクション：ライン減点、タイム減点、技数不足等)
+ 加 点	(最大 0.50)
<hr/>	
決 定 点	

2. 演技構成、および技のグループと特別要求(種目特有の要求)

- (1) ゆか、あん馬、つり輪、平行棒、鉄棒の演技は次の技数を要求する。

a) 技数 6技(5技+終末技)

- i) 技は難度により、次の得点(難度点)が与えられる。

A : 0.10 B : 0.20 C以上 : 0.30

- (2) 技のグループ、および特別要求(種目特有の要求)

a) 跳馬を除く5種目において次のグループを要求する。

- i) 終末技を除き3つの技のグループの内、2つを要求する。

(1グループにつき0.50。0.50×2グループ=1.00)

※3つの技のグループを実施しても1.00となる。

- ii) 終末技の技のグループ(A難度以上0.50)

b) 技のグループは次の通りとする。

ゆか)

- I 跳躍技以外の技
- II 前方系の跳躍技
- III 後方系の跳躍技
- IV 終末技

あん馬)

- I 片足振動・交差技
- II 旋回・旋回倒立・転向技
- III 旋回移動・転向移動技
- IV 終末技

つり輪)

- I 振動・振動倒立技
- II 力技・静止技
- III 振動からの力静止技
- IV 終末技

平行棒)

- I 両棒での支持技
- II 腕支持振動技
- III 長懸垂・逆懸垂振動技
- IV 終末技

鉄棒)

- I 懸垂振動技
- II 手放し技
- III バーに近い・アドラー系の技
- IV 終末技

c) 特別要求 (種目特有の要求)

跳馬を除く 5 種目において次の技を特別要求 (種目特有の要求) として演技構成に入れること。要求を満たさない場合は各々0.30のNDとする。なお、6技に入れる必要はなく、大過失で難度認定されなかった場合でも実施していれば認める。ただし倒立静止においては静止が認められなければならない。

- ① ゆ か ・ 倒立静止
 - ・ 3方向の前後および左右開脚座
 - ・ ロンダート～後転とび～後方宙返り系の技
- ② あん馬 ・ 交差技
 - ・ 縦向き旋回 (把手上の旋回を除く)
- ③ つり輪 ・ 倒立静止
 - ・ 背面水平懸垂または正面水平懸垂
- ④ 平行棒 ・ 倒立静止
 - ・ 前振り上がり
- ⑤ 鉄 棒 ・ 後方浮き支持回転倒立

(3) 難度認定の特例

a) a 難度 (スモール・エー)

i) 体操競技の健全な発展と評価、そして普及の観点から次の技を「a 難度」とし 0.10 の難度点を与える。ただし、技のグループは満たせない。主な a 難度は第 6 条 2 の通り。

b) a 難度を除き、難度表に掲載されていない次の技を特例として難度を認定する。

(技のグループと技数を満たす)

つり輪	I	・ 屈腕の車輪倒立静止 (前方・後方)	: B 難度 (実施減点で対応)
	IV	・ 前方かかえ込み宙返り下り	: A 難度
		・ 後方かかえ込み宙返り下り	: A 難度
平行棒	I	・ 前振りひねり倒立 4 5°未満	: B 難度 (実施減点で対応)
	IV	・ 前方かかえ込み宙返り下り	: A 難度
		・ 後方かかえ込み宙返り下り	: A 難度
鉄 棒	III	・ 足裏支持回転倒立	: A 難度
	IV	・ 前方かかえ込み宙返り下り	: A 難度
		・ 後方かかえ込み宙返り下り	: A 難度

(4) 跳馬の価値点 (D スコア)

a) 跳馬の価値点 (D スコア) は、別紙「2022 年版全国ブロック選抜 U-12 跳馬価値点一覧表」に定める。

b) 跳馬の価値点 (D スコア) は、3.2 を上限とする。

c) 切り返し系の技 (開脚とび、閉脚とびなど) の難度点 (D スコア) は 1.0 とする。

d) 台上前転は前転とびと同じ難度点 (D スコア) とする。ただし、姿勢的な減点の他、器具にぶつかるなど大欠点以上の減点を伴う。

第 3 条 実施

1. 実施

(1) 実施は 10.00 から実施減点を差し引いた得点を E スコアとする。

2. 実施減点

- (1) 正しい演技からの逸脱は、すべて実施欠点であり、審判員によって相応の減点がなされる。小、中、大欠点の大きさは、正しい実施からの逸脱の程度により判定される。小、中、大欠点等の減点は FIG ルールの減点に準ずる。ただし落下のみ 0.50 とする。

3. 減点に関する特例

- (1) つり輪、平行棒、鉄棒において、正しい実施のもとに意図して実施された振れ戻りは減点の対象としない。

例) 鉄棒：後ろ振り上がりや逆手から順手への両手持ち換え

- (2) 飛距離、高さ等に対する減点は体格などを考慮し選手が不利にならないように採点する。また、競技会のレベルも考慮し審判員が判断する。

4. 加点

- (1) 加点は、D 審判がすべての項目を判断する。

- (2) 着地を止めた場合は安定した着地に対して、0.10 の加点をする。(a 難度を除く)

- (3) 各種目に定められた項目に対して最大 0.40 の加点を与えることができる。

- ① ゆか
 - ・ロンダート～後転とびからの宙返り技の高さに対する評価 (0.1)
 - ・ロンダート～後転とびのスピードに対する評価 (0.1)
 - ・宙返り連続で 2 回目の宙返りの蹴り返しのあるものを評価する (0.1)
 - ・柔軟性など姿勢の美しさ、動きの美しさに対する評価 (0.1)
- ② あん馬
 - ・大きさのある交差技に対する評価 (0.1)
 - ・腰高で大きさのある旋回に対する評価 (0.2)
 - ・膝、つま先の伸びた美しい実施に対する評価 (0.1)
- ③ つり輪
 - ・正しい倒立姿勢に対する評価 (0.1)
 - ・伸腕での前方または後方車輪倒立 (静止 or 経過) を実施した演技 (0.1)
 - ・B 難度以上の力静止技を実施した演技 (0.1)
 - ・膝、つま先の伸びた美しい実施に対する評価 (0.1)
- ④ 跳馬
 - ・突き手からの上昇運動が見える高さのある跳越 (0.2)
 - ・意識して先取りが見られる着地への準備に対する評価 (0.1)
 - ・膝、つま先の伸びた美しい実施に対する評価 (0.1)
- ⑤ 平行棒
 - ・正しい倒立姿勢に対する評価 (0.1)
 - ・振れ幅のある支持振動系の技に対する評価 (0.1)
 - ・振れ幅のある懸垂系の技に対する評価 (0.1)
 - ・膝、つま先の伸びた美しい実施に対する評価 (0.1)
- ⑥ 鉄棒
 - ・車輪において、抜きあふりのあるものを評価する (0.1)
 - ・支持回転系の技において、上昇運動からの正しい倒立におさめられた終末局面に対する評価 (0.1)
 - ・終末技の高さに対する評価 (0.1)
 - ・膝、つま先の伸びた美しい実施に対する評価 (0.1)

- (4) 組み合わせによる加点は与えない。

第4条 ND

1. ニュートラル・ディダクション

- (1) あん馬において、馬体の 3 部分を使用しなかった場合の ND は適用しない。

- (2) ゆかにおいて、2 回宙返りを実施しなくても ND の対象にはならない。

- (3) ゆかにおいて、4 つのコーナーに達しなくとも 2 つの対角線上 (2 ライン) での実施が認められれば ND の対象にはならない。2 ラインの使用がなければ減点対象とする。

- (4) つり輪の振動倒立静止の要求はしない。よって演技構成になくとも ND の対象にはならない。

(5) 短い演技（技数不足）に対する ND は、次の通りとする。

5 技	1.00
4 技	3.00
3 技	4.00
2 技	5.00
1 技	6.00

第5条 禁止技

1. 以下の禁止技を実施した場合は、その演技を 0 点とする。

(1) 難度表に記載されている FIG ジュニアルールでの禁止技

- ・つり輪のグチョギー系の技
- ・平行棒の宙返りから腕支持となる技

(2) 前方に 2 回以上の宙返りをする技

第6条 その他

1. 事故防止と選手の精神的援助のためつり輪、跳馬、平行棒、鉄棒において 2 名までの補助者が立つことが許される。

2. 主な a 難度を以下に示す。示された技以外は競技会の主旨、レベル等を考慮して審判員が各自で判断する。

ゆか)

- ・前転技群（前転、開脚前転、伸膝前転、倒立前転）1 技まで
- ・後転技群（後転、開脚後転、伸膝後転、後転倒立）1 技まで
- ・側方倒立回転
- ・ロンダート

あん馬)

- ・四つ足（左入れ～右入れ～左抜き～右抜き）
- ・2 つ目以降の横向き旋回（両把手、馬端、逆馬端でそれぞれ 1 つの技）
- ・2 つ目の正交差、2 つ目の逆交差（左右それぞれ 1 つの技）
- ・（馬端中向き）上向き下り

つり輪)

- ・肩倒立

平行棒)

- ・開脚前挙支持
- ・腕支持～後ろ振り上がり支持
- ・懸垂前振り～後方かかえ込み宙返り下り（棒間）
- ・前振り～後方かかえ込み宙返り下り（棒間）

鉄棒)

- ・け上がり支持
- ・懸垂前振りひねり
- ・懸垂前振り逆上がり
- ・後ろ振り上がり支持
- ・両手を同時に持ち換える技
- ・前方支持回転、後方支持回転
- ・後方足裏支持回転振り出し下り

3. 器械器具の寸度

ゆ か	12m×12m	
器械種目	床面からの高さ	マットの厚さ
あん馬	115～116cm	10～12cm 演技開始時の跳びつき用として 50cm までの補助台を使用可
つり輪	265cm	18cm または 20cm
跳馬	120cm	18cm または 20cm
平行棒	175cm	12cm
	185cm	20cm
鉄棒	275cm	18cm または 20cm

※ つり輪、跳馬、鉄棒については、着地マットの使用を認める。

※ 跳馬の跳躍版は、ハードタイプ（3－3－2）・ソフトタイプ（3－1－2）を使用する。
ソフトタイプ（3－1－2）はコイルを外し（2－1－2）として使用することを認める。
使用後は必ず責任をもって元に戻すこと。

※ 平行棒は器械により±2cmを認める。

以上